
令和6年度 校内研究の概要

I 研究主題

「共に学び合い伝え合う授業づくり」

～ICT 機器を取り入れた授業改善と効果的な活用をめざして～

II 研究主題設定の理由

(1) これまでの研究経過から

本校では令和4年度から、ICTを活用した授業づくりについて、教職員対象の端末やアプリの活用研修、授業研究、児童会と連携したICTを活用した諸活動（タイピングコンクールなど児童会とタイアップしての児童のスキルアップを図る活動）の取り組みを通して、研究を進めた。

昨年度は、前年度の研究を生かし、更にICT機器の活用を促進し、授業改善につなげるために研修会を開催し、ICTメディアリテラシーの育成について学ぶ機会を設けたり、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、「学び合い」「伝え合う」ことを更に深めていく授業実践を行ったりすることを通して研究を進めた。

その結果、研究の枠組みとして研修会や学習会を重ねたことや、代表者による研究授業を行ったことなどにより、ICTの効果的な活用場面を教師同士が学び合うことができ、教師のICT機器活用意識が高まったことが成果として挙げられる。また、諸活動の取組を通して、児童のICT機器活用の意欲や習熟度を高めることもできた。教科のみならず、教育活動全体でICTを活用する場面が増えたことも成果であるといえる。一方で、ICTリテラシーについては、十分な育成を図るまでには至っていないという課題が挙げられた。

研究の最終年となる今年度は、過去2年間の研究をふまえ、研究テーマを継続し、これまでの研究の成果と課題を反映させながら、ICTを中心とした授業づくりの研究を深めていきたい。

(2) 今日の教育課題から

現代の子供たちが活躍していくであろう未来の社会は、私たちの想像を超えるAI技術の進歩やグローバル化等、変化の激しい世の中になることが予想されている。このような社会を生きていく子供たちに必要となるのが、学力はもちろん、身の回りに起こる様々な問題に自ら向き合い、その解決に向けて他者と協調しながら解決策を導き出していく力である。また、授業や学校生活の中でのICTの活用能力は私たち教員にとっても必須の力となりつつある。

学習指導要領において、授業改善の取組の一つとして挙げられているのが「主体的・対話的で深い学び」の実現である。教師自らが授業改善に取り組み、子供たち一人一人の学

びを確かにしていくことが求められる。

このような今日的課題を踏まえ、主体的に学習に取り組む姿勢や互いに尊重しながら対話し、学び合う学習活動を通して学びの質を高め、21世紀を生き抜く力を身に付けた児童の育成を目指していきたい。

(3) 学校教育目標の具現化から

学校教育目標「夢を持ち続けながら進んで学ぶ，心豊かでたくましい子どもの育成」
目指す子ども像
○かしこく（知）学び方を身に付け，意欲的に学習や課題に取り組む子ども
○やさしく（徳）人，自然を思いやり，仲間と共に自分を発揮できる子ども
○たくましく（体）健康・安全，きまりを身に付け，健やかな生活ができる子ども

「生きる力」の構成要素として、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな人間性」の3つがあるが、本校の学校目標も、知・徳・体のバランスのとれた人間形成を目指しており、「生きる力」の理念につながる願いが込められている。ICT機器を活用することで児童がより主体的に学び、互いに学び合いながら伝え合うことを目指した本研究は、本校の教育目標の具現化につながるものとする。

(4) 研究テーマについて

主題である「共に学び合い伝え合う授業づくり」の実現には、学習内容の一方的な教授ではなく、児童同士が様々な考えを交流し合い、伝え合いながら自分の考えを深める活動が大切であるとする。また、授業者が子供たちに身につけさせたい力や授業のねらいを明確にもち、意図的に対話が生まれる場を設けることにより、質の高い学びが生まれることになるだろう。子供たちが学んだことを自分の言葉でふり返り、自分の成長や学んだことを認識できることが、主体的に学ぶ意欲へつながると考える。

「共に学び合い伝え合う授業」の具現化に向けて、令和3年度から本格的導入をされた「一人一台端末」は有効的な学習ツールである。学び合い伝え合う場面においてタブレット等を活用することで限られた授業時間を有効に使うことにもつながっていくのではないかと考える。

副題の「ICT機器を取り入れた授業改善と効果的な活用をめざして」には、私たち教師がタブレット等の効果的な活用スキルを身につけ、授業改善を重ねて効果的な活用の場面が増えていくことで、確かな学力につなげていくという意味合いを込めた。

III 研究の目標

-
- ・ ICTを活用した授業づくりに関する研修と、研修での学びを生かした実践を通して、タブレット端末等のICTを効果的に活用した授業のあり方を追究する。ICTを効果的に活用する授業づくりの視点から日々の授業改善を進め、指導者の授業力の向上を目指す。

IV 研究内容

〈ICT を中心とした授業づくり〉

個別最適な学びを実現するために、自由進度学習や複線型授業などの、ICT を中心とした授業づくりを研究する。

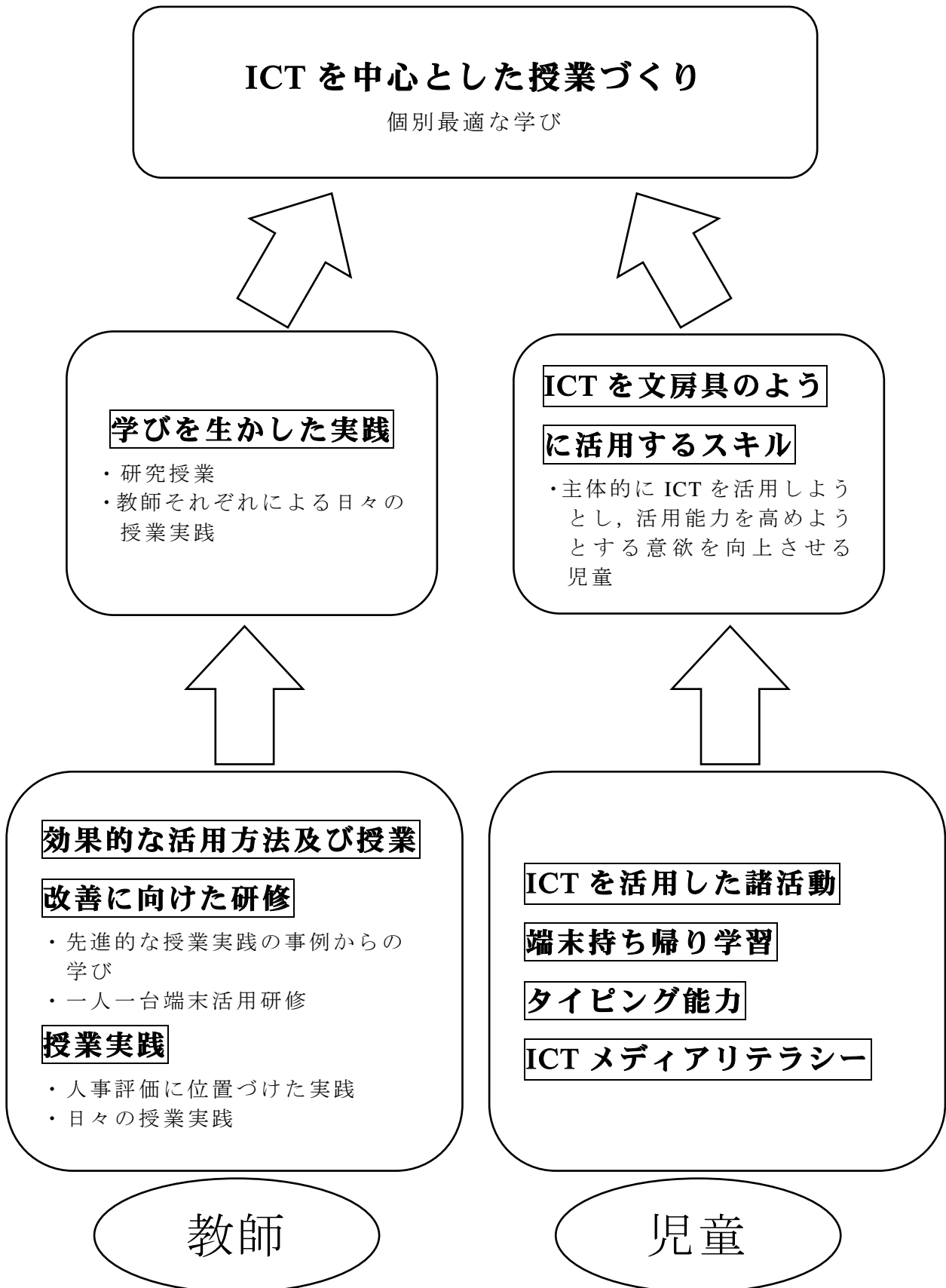
【教師の ICT 活用能力の育成】

- ① 一人一台端末等の**効果的な活用方法及び授業改善に向けた研修**
 - ・先進的な授業実践の事例の研修や一人一台端末活用研修の実施。
- ② **授業実践**に取り組み、教師の指導力向上を図る。
 - ・研修などをもとに、日々の授業実践で ICT を活用していく。
 - ・全体による「授業研究」を行い、ICT を活用した授業分析と協議を実施。
→研究授業者による研究授業

【児童の ICT 活用能力の育成】

- ① 児童会と連携した**ICT を活用した諸活動**の実施
 - ・児童が楽しみながら一人一台端末を主体的に活用できる取り組み
 - 活動事例
タイピングコンクール、お絵かきコンクール、写真コンクール など
今年度は、必ずしもコンクール形式にこだわらない。
- ② **端末持ち帰り学習**の推進
 - ・日々の端末持ち帰りや、長期休業中の端末持ち帰りによる学習の充実。
- ③ 端末活用を円滑に進める**タイピング能力**の育成
 - ・発達段階に応じたタイピング能力の基礎を身に付けさせる。
- ④ **ICT メディアリテラシー**の育成
 - ・児童の発達段階に応じ、望ましい ICT メディアリテラシーの育成を図る。

V 研究構想図



VI 研究組織

